

ブロイラー産肉能力に関する試験 (第46報)

山本光生・清水正明¹・山本亮平²・八木智子・松長辰司・富久章子

要 約

ブロイラーの改良と農家経営の指針を得るため、県内で飼育されている主要銘柄であるチャンキーについて、令和2年9月9日から令和2年10月21日(42日間)まで産肉能力試験を実施した。

6週齢時の雌雄平均成績については、育成率が100.0%、出荷時体重が3,120g、飼料要求率が1.43であった。また、プロダクションスコアは518.9であった。一方、と体成績では、むね肉歩留が24.6%、もも肉歩留が20.3%であり、むね肉、もも肉及びささみを合わせた歩留が、49.2%であった。

ブロイラーの能力は毎年向上しており、今後も継続した試験が必要である。

目 的

当課では、ブロイラー改良の動向を把握するため、昭和52年からブロイラーの主要銘柄について産肉能力試験を実施している¹⁾。本試験では、県内に流通している市販1銘柄を用い、その発育性、飼料摂取量、飼料要求率及びと体成績について調査した。

材料および方法

1) 試験期間

令和2年9月9日から令和2年10月21日(42日間)。

2) 試験区分

供試鶏種及び羽数を表1に示した。雌雄それぞれ50羽を供試し、雌雄別飼とした。

表1 試験区分 (羽)

区	銘 柄	♂	♀	計
1	チャンキー	50	50	100

3) 供試飼料

供試飼料の種類及び成分を表2に示した。試験期間を通して市販のブロイラー用飼料を用い、不断給餌とした。

4) 飼養管理

試験鶏舎は平飼開放型鶏舎で1室4.32m²を使用し、各室50羽(38羽/3.3m²)を収容した。育雛、育成とも同一場所で飼育した。温度管理は当課の慣行に従い、パンケーキ型ガスブルーダーによる給温は2週齢時に廃した。飲水はニップルドリンカーを用い、自由飲水とした。

1 徳島県水・環境課 2 徳島県ワクチン・入院調整課

表2 供試飼料

期 間	種 類	成 分 (%)				ME (kcal/kg)
		C P	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	
0-3週齢	ブロイラー肥育前期用	20.0	4.0	5.0	8.0	3,150
3-5週齢	ブロイラー肥育後期用	18.5	4.5	5.0	8.0	3,230
5-6週齢	ブロイラー休 薬 用	18.0	4.5	5.0	8.0	3,300

C P : 粗タンパク質 ME : 代謝エネルギー

5) 衛生管理

ワクチネーションは、孵化場にてPOX, MDを接種、初生時にIB, 2週齢時にND, 19日齢時にIBD, 3週齢時にILT, 4週齢時にNDとした。その他の薬剤投与は当課の慣行に従った。

6) 調査項目

調査項目は次のとおりである。

- (1) 鶏舎環境, (2) 育成率, (3) 発育体重,
- (4) 飼料摂取量, (5) 飼料要求率, (6) と体成績

結果及び考察

1) 鶏舎環境

各週齢における、各項目の平均値は図1のとおりである。

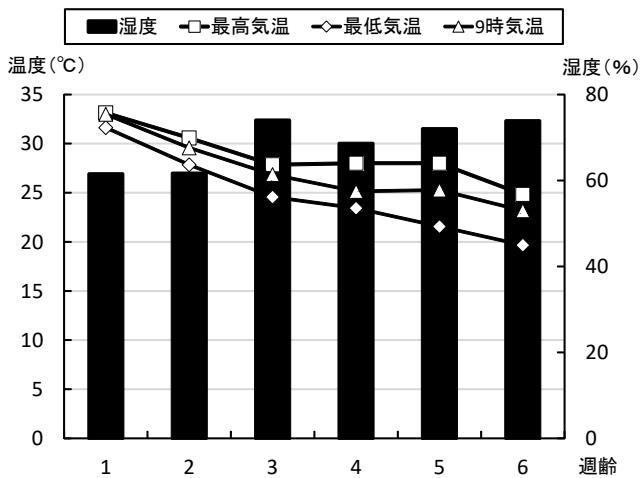


図1 鶏舎気象

2) 育成率

育成率は表3のとおりである。

雌雄ともに育成率は100.0パーセントであった。

表3 育成率 (%)

区	♂	♀	平均
1	100.0	100.0	100.0

3) 発育体重

発育体重は表4のとおりである。6週齢の1羽当たりの発育体重は、雄3,419g、雌2,822gであった。

表4 週齢別発育体重 (g)

区・性		週齢 0	1	3	5	6
		1 ♂	38.6	180.0	1,086	2,617
♀	38.6	170.0	968	2,167	2,822	
平均	38.6	175.0	1,027	2,392	3,120	

表5 1羽1日あたりの飼料摂取量 (g/羽/日)

飼料種類・週齢		前期用			後期用		休薬用
		1	2	3	4	5	6
区・性							
1	♂	19.8	55.7	95.5	142.6	173.9	192.1
	♀	20.7	51.7	78.6	117.4	143.3	167.3
	平均	20.2	53.7	87.0	130.0	158.6	179.7

4) 飼料摂取量

飼料摂取量は表5及び表6のとおりである。

6週齢までの1羽当たりの総摂取量は、雄4,757.6g、雌4,052.4gであった。

表6 期間別飼料摂取量 (g/羽)

区・性	期間	0-3	3-5	5-6	計
	週齢	週齢	週齢	週齢	
1	♂	1,197.0	2,215.6	1,345.0	4,757.6
	♀	1,056.6	1,824.8	1,171.0	4,052.4
	平均	1,126.8	2,020.2	1,258.0	4,405.0

5) 飼料要求率

飼料要求率は表7のとおりである。

6週齢時において雄1.41、雌1.46であった。

6) と体成績

と体成績を表8に示した。

と体調査は、6週齢時に食鳥取引規格に基づき実施した。調査に供試する個体は、平均体重に近いものを雌雄各3羽とした。

と体歩留は平均93.6%であった。むね肉、もも肉及びささみの合計は、と体重に対して49.2%であった。

また、腹腔内脂肪は2.1%であった。

表7 飼料要求率

区・性		週齢	3	5	6
1	♂		1.14	1.32	1.41
	♀		1.14	1.35	1.46
	平均		1.14	1.34	1.43

7) 経済性

経済性を表9に示した。

6週齢における1羽あたりの所得は雄196.9円、雌137.0円、雄雌平均167.0円であった。これらを生体重1kgあたりの所得に換算すると、平均は53.1円となった。

ブロイラーの能力は毎年向上しており、今後も調査を継続し、ブロイラーの能力に適した飼養管理技術の改善を図る必要がある。

文 献

- 1) 八木智子・山本亮平ら. 徳島畜研報. 20. 34-37. 2021.

表8 と体成績 (6週齢時)

(体重：g, その他：%)

区・性	項目	生体重	と体重	と体歩留	正肉歩留			骨付き手羽	可食内臓割合				腹腔内脂肪	
					むね	もも	ささみ		計	心臓	筋胃	肝臓		計
1	♂	3,451	3,229	93.6	25.0	20.4	4.0	49.4	8.5	0.5	1.2	1.9	3.6	1.8
	♀	2,815	2,637	93.7	24.2	20.2	4.5	48.9	8.4	0.8	1.1	2.3	4.1	2.4
平均		3,133	2,933	93.6	24.6	20.3	4.3	49.2	8.5	0.6	1.2	2.1	3.9	2.1

表9 経済性試算表

(P S以外：円)

区・性	項目	収入	支出				P S	所得 (収支)	
			素ヒナ代	飼料費	光熱費等	計		1羽あたり	1kgあたり
1	♂	512.9	80	201.9	34	315.9	578.4	196.9	57.6
	♀	423.3	80	172.3	34	286.3	461.4	137.0	48.6
平均		468.1	80	187.1	34	301.1	518.9	167.0	53.1

注 (1) 収入：1羽あたり平均体重 (kg) × 150円

(2) 飼料費：前期用49円/kg, 後期用41円/kg, 休薬用39円/kgで試算

(3) 光熱費等内訳：衛生費16円/羽, 光熱費その他等18円/羽で試算

(4) P S：プロダクションスコア = {(出荷時体重 × 育成率) ÷ (飼料要求率 × 出荷日数)} × 100

(5) 所得：収入 - 支出